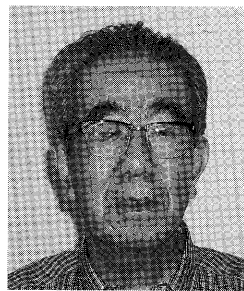


●書籍を積んで多摩の大学生協まわり

—東経大生協から連合会へ—

萩原 久利

元東京経済大学生協専務理事



一九三〇年 東京市京橋区生まれ
 一九五八年 東京経済大学生協入協
 一九六一年 大学生協連監事 六三年 同生協連理事
 一九六四年 東京経済大学生協専務理事
 一九六八年 大学生協連常勤専務理事
 一九七二年 三多摩市民生協専務理事
 一九七七年 東京都生協連常勤専務理事

私は一九五五年に東京経済大学を卒業した。本当は五四年に卒業する予定だったが当時いろいろなことをしていたので延びてしまった。卒業して小さな出版社や団体の機関誌の編集をやつてご飯を食べていた。

五八年に東経大に生協ができて、九月から営業を始めるというので、自分の出身大学の東経大生協に入ることになった。大学には共済会みたいなものがあつたがそこがつぶれて、生協をつくることになったが、設立するにあたって学生より教職員が中心を担っていた。

私は、先生方と学生時代から仲良かったから、先生方の要求を知っていた。大学生協なんだから本を扱つてほしいというのだ。私は書籍事業を知っているかといえば、入協するまえに出版社にいたから、全く知らない人間よりは少し知っている程度だった。そんな事情で、東経大生協に入ったので大学生協連も地連も知らなかった。地連のことを知つたのは斎藤嘉璋さんが尋ねてきてからだ。五九年に早稲田で総会があり、訪問したらそこに稲川さんがいて、全く偶然にあつた。お互い生協に入る前から知り合いだったのだが。そんなことから、大学生協連の世界を知つた。

六一年鬼怒川の全国総会が開催され、そこで大野英さん（東工大）から監事をやつてくれと頼まれた。理由を聞くと「あんた大人だから」と言われた。といわれても当時私は三〇歳前であり、あまり大学生協連のことは知らなかったが引きうけた。大学生協連

を通じて、田中尚四さん、東北大の安孫子さん、立命館の竹内さん、岩井君、九州の彌永さん達を知り、仲良くなりよく遊んだ。監事は二年くらいやったが、同志社の新町校舎の全国総会、次が八ヶ岳の明治大の寮での全国総会で監査報告をしたのを覚えている。同盟化活動の話だが。東京のチベットの三多摩は都内の流通とはまったく異なっていて、購買物資の問屋は八王子の問屋から、書籍は神田からだ。定期で廻っていないと、月に一遍くらい注文したものが入ってくる程度だった。そこで六一年、トヨエースを買って、自分で本を取りにいった。その取引先は大学生協連が関わる取引先でなく、昔からの明文書店、理系の西村書店だった。東大に行ったら、今井隅田さんから鈴木書店を紹介され、取引するようになった。

車で帰ってくる途中、甲州街道には電通大があり、府中をまわって街道を寄ると農工大があり、横道を入ると慶応の工学部があり、小金井に寄り道してそこから行き過ぎだが学芸大、書籍や商品をおろしてまわった。私は、眼がわるいので運転できないので学生のアルバイトをつかって二、三日おきに取りにいった。各単協におろしてまわった。六三年から六四年、これが三多摩統一事業部を作るきっかけになった。

三多摩では、引継ぎが多く、管理者をどうするかで、学芸大は早大生協から伊東洋一（万能な人だった）、設立は井口省二だが卒業で井口信治がやらざるを得ない。農工大は大学職員が中心に生協をみていたが、おぼちゃんが業務の中心、東大の菊池、素人なの

で、私が面倒を見る。電通大には木原。

そんな活動が赤字か黒字かは別にして事業的には成功したと思っている。伊香保の全国総会の前に呼ばれて、連合会の常勤部に来いといわれた。聞いても大人がいないからだからということだった。稲川さんは関西に行っていたからかだろう。大学生協連で「地域生協支援づくり」に関する議案書を書いたとき、桐原さんに叱られた。今さらこんなもの「いわずもがな」のものを何で書いたと。

六〇年ころの大学生協は六〇校くらいだった。安保の後を経て、各地で生協ができていく過程だが、できていくのはみんな小さい生協ばかりだった。東京でも、東大、明治法政、早稲田、関西にいつても、同志社、立命館等すべて大単協はすでに設立されており、中小生協が設立される。自分も中小東経大の出身だから、中小生協の事業問題・経営問題に関心があり、当時食堂経営ハンドブックⅡ経営標準値をつくった。それはまた、大学生協連からみても必要性であった。

私は、出身生協の東経大・国分寺の消費者の会にも入っていた。法政大生協から来た田丸さんが専務だった消費者の会との牛乳を出したりする関係があった。当時、東京北部生協（現コープとうきょう）の共同購入の組織が町田、日野の多摩平の団地にあり、それと国分寺の消費者の会とつけて、三多摩に地域生協をつくらうという話が出てきた。地域生協作りは大学生協の課題でもあり、作る仕事に取り掛かり、桐原理事長と一緒に

町田、日野の組合員組織をつくろうと話し合った記憶が残っている。七二年三月三多摩市民生協ができた。名簿上のスタートは五〇〇人だが、年度末は一万名、すごい勢いで伸び、東大和、小金井等はその頃出来た班組織である。町田には、町田市中央民生協があり組合員の多い生協だった。

三多摩では、引き継ぎが多く、管理者をどうするかで、学芸大生協は早大生協から伊藤洋一（万能な人だった）が派遣された。生協設立は井口省二君だったが、引き継いだのは井口信治君だった。農工大は大学職員が中心に生協をみていたが、おぼちゃんも業務の中心で、東大の菊池君は素人なので、私が面倒をみた。電通大生協には木原君が派遣された。